

柏樹

会長 勇
川口市退職校長会
会報 第23号
令和3年7月1日

普通の神様

横田 保



信じる神様をお持ちですか？神など存在しないと思っていいますか？特定の神

を信じている人も、そうでない人も、これまで苦しい時の神頼みで神棚や仏壇に手を合わせて、祈ったり願ったりしたことのない人は、恐らく皆無ではないでしょう。私の幼い頃、祖母が畑の見回りをしながら、朝は東に向って昇る朝日に、夕暮れには西に向かい沈みゆく夕日に、手を合わせている姿を見たものです。そして、お日様は一番えらい神様だと教えてくれました。日本人は古来、八百万の神といい、どこにも神が存在すると信じてきたと思います。山の神、火の神、トイレの神、学問の神等々、最近ではゲームの神様もいるでしょう。というように、至るところ神様だらけです。しかし、このように特定の神を思う

のではなく、ごく普通の私にとって、普通の神様もいるのではないかと思うのです。だって世の中には、普通の人の方が多いではありませんか。ならば普通の人を守ってくれる神もいるはず。皆さん、二十日ばかりで結構です。何か変わったことはありませんか？仕事から離れて何年もすれば、そんなに変わったことが起こることはありませんね。

東京五輪の開会式の日を体育の日として祝っていたのが、いつの間にか今年はスポーツの日として7月23日に変わり、何か記念する意味合いが薄れてきます。初任校の西中の開校記念日は5月第1月曜で必ず連休となっていたのが今はそうではありません。公の特別の日だけではなく、私的にも特別の日は存在します。誕生日、結婚記念日、新築した日等、記憶される日があります。これらの日が十日間の間にあれば、それは特別の日です。しかし、それを除けば何があったか、どこへ行ったかほとんど記憶に残りません。普通の日だからです。それでも無事に過ごしてきましたね。それは普通の神様があなたを守ってくれたお陰ではないですか？

では普通の神様とは、どんな存在でしょうか。普通の人を応援してくれる神様です。

神様とは、感謝する存在です。感謝しなければ、存在しないのです。何も特別なこともなく、平凡に終わった一日ならその一日に感謝すべきです。大事なことは、今日よりは明日、明日よりは明後日と普通のレベルを上げるように努力することです。それは質の高い習慣をつくることになると思うのです。

さいたまの群馬県人

大野 光雄



「群馬県人」になったのは数年前、沼田市に住民票を移してからだ。勤務先

はみなかみ町だが、自宅があるさいたま市には、月に一度は帰ることにしている。ただ、最近「不要不急の外出」とか「県境をまたぐ移動」という言葉に少し敏感になることもある。家に留まってさえいれれば何でもないことなのだが、単身赴任中の私にとっては、少し気まずい思いがしないでもない。そもそも、私がさいたま市に帰るのは、行きつけの理容院や掛かりつけ医に通院するためだ。単身赴任先で済ませることもできるが、馴染みの理容師

や医師ではないのでどうしても気が進まない。だから定期的にさいたま市に帰ることになる。つまり、私にとっての帰宅は生活に必要な外出であって、決して「不要不急の外出」ではない。と言っても、そんな他人の話に関心を払う人などいない。だから私は毎月、開き直ったような気持ちで新上武大橋を車で渡り、「県境をまたぐ移動」をしている。

一方で、「群馬県人」であることにメリットを感じることも少なくない。人や食や自然や文化に触れて、多くの刺激を得られるからだ。

沼田を拠点にして、日頃、動物園で見ることのできない熊や鹿や猿などにも遭遇した。至近距離で見た大きな動物には迫力や凄みがあった。上品なレストランでの料理ではないが、そんな野生動物のジビエも食した。コロナ禍が広がる以前には、月夜野でアニメ映画の一場面のようなホタルの乱舞を鑑賞できた。間近で見た沼田の花火も迫力があった。春には尾瀬の清流と水芭蕉に心を癒し、夏には谷川岳山頂からの絶景に息をのみ、秋には紅葉の吾妻溪谷を歩き、冬には武尊の雪山を滑り降りた。

群馬は、まだまだ未知のものに溢れている。今年もさらに多くの感動に出会いたいと思う。私が「群馬県人」であるうちに。

令和三年度の スタートにあたって

川口市退職校長会会長

南 勇



5月8日に川口市退職校長会総会を予定して、おりましたが、コロナ感染症のため昨年度に続き中止させていただきました。諸準備をしていただいた各クラブ・行事の理事、幹事の皆様、また、総会に出席を予定していた会員の皆様には、大変申し訳ありませんでした。

しかし、このような中、嬉しいことに令和2年度に9名という大変多くの先生方が米寿及び叙勲の榮譽に輝きました。9名の先生方、誠におめでとうございます。これを機に益々ご健康に留意され、本会への一層のご指導を賜れば幸いに存じます。

現在、コロナ感染症が蔓延する中で退職校長会として何をなすべきか。答えは簡単ではありませんし、また、一様でもありませんが、一つだけ言えることは、かの渋沢栄一の言葉にありませぬ「死ぬときに残す教訓よりも、生きている時にどういう行動をとるかが大事」ということです。本会の今年度の取組のひとつに、4月に開校した川口市立高校附属中学校への支援です。

これは、教育面だけでなく、本市全体の事業の中で、最も大きな、そして最も明るい未来が期待されるもので、6年制の中高一貫校として、2学級80名を定員として高校内に設置されたものです。今後、充実した6年間を送ってもらい、6年後の進路が非常に楽しみになってくるところです。また、教職員の小中高校間の人事交流も盛んになると思えます。

一方、高校の方は、新制度になってはじめての卒業生を出しましたが、東工大や北海道大学をはじめ、国公立大学に35名合格するという実績を残しました。今後、川口市立小中高高等学校が一丸となって発展することを期待して退職校長会として、大いに支援していきたいと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

米寿並びに瑞宝双光章 おめでとうございます

- (故) 工藤 勘吾 先生
- (故) 奇藤 和雄 先生
- (故) 山田 増一 先生
- (故) 小川 吉之丞 先生
- 河野 幹司 先生
- 毒島 福夫 先生
- 佐藤 英雄 先生
- 大澤 春樹 先生
- 安田 正信 先生

——ちよつといひ話——

出会いは宝物

福田 由美子

たくさんのお会いを通じて、自分が育てられてきました。思い出すその一つ一つに、

「ありがとうございます。お蔭様です。」

と自分で再生しながらつぶやいているこの頃です。

書道の最初の師匠は母のような方でした。口に出さなくても、困っている時には、感じてくださる方でした。

「何かありそうなきは、書道に取り組んでいるね。」

と私の母にもお見通しでした。

定年退職後、少し時間をかけて書作に取り組めるようになりました。その中で、いつも使っている筆だけでなく、

久しぶりのご対面の筆も。おやおや、君に初めて会ったのは、さて、いつだったかという筆。未熟な私の腕には適

わない筆とずっと疎遠になっていました。

そして、最近再開した筆。この筆は、今の師匠が、広島県熊野町の筆工房に

研修旅行に行かれた際、購入された筆のうちの1本で、私に紹介してください

った筆でした。高級な筆であることは解っていましたが、使いこなせずにそ

のままに。墨の濃さや筆に含ませている墨量、書くスピードも関係し、思うように墨が紙に乗りませんでした。その筆と久しぶりの再会です。

師匠は、筆に感謝しないとね。と話を進めて、

「こういう筆と巡り会えたことは幸せだよ。そして、筆の職人さんにも感謝だね。」と。

最近海外でも日本の化粧筆は大人気だそうです。書の筆の職人さんが造る化粧筆。頬を撫でるときの心地よさ。

書の筆もこのように柔らかなタッチなかと、書の筆でくると撫でてみ

ました。化粧筆と同じです。気持ち良い！

いつでも使えることがあたり前のように思っ疎遠にしていた筆くん。

久々の再開にもかかわらず、頑張った最高の力を発揮してくれています。

それは奇跡だと師匠が言いました。筆は保存の具合によつては、穂先がバラバラに切れてしまい、まったく使えなくなってしまうそうです。

再会することを待っていてくれたのでしようか。

「筆くん、ありがとうございます。君に出会えて幸せです。」

職人さんの想いが、その筆の中に魂のように宿っているのです。筆くん、君に会えたことは、宝物です。人に限らず、いつでも出会いは宝物です。

日々雑感

三・一一の思いで

田丸 淳 哉

「柏樹」の原稿執筆依頼をいただいたのが3月上旬である。今年は東日本大震災から10年目の節目の年ということで、各メディアが震災後の被災地の状況を様々な視点から伝えていた。復興は進むものの震災前のような生活には決して戻らないことを痛感させられた。改めて、1万8千人を超える亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、復興に向けて取り組まれたすべての方々に敬意を表したい。

これらの報道を見ていて、10年前の3月11日の状況がよみがえってきた。被災された方々に比べたら何ともしようもない苦労ではあるが、自らの職務を遂行する上でどうにもならない状況の中、先輩の校長先生に助けられた思い出である。

震災発生直後、私は学務課長として、市内の学校の被害状況を確認した。電話が大変つながりにくい中ですべての学校の無事を確認できたのは、午後7時前であった。ちょうどその頃、各小学校の放課後児童クラブの職員を帰宅させたいとの相談を学務課の係員から受けた。ご承知のように川口市の放課後児童クラブは、周辺他市とは異なり、

同じ学務課が所管している。また、小学校の敷地内にあり、学校との関係も深い。交通機関がマヒしていて保護者がリミットの7時までにはどうい迎えに来られない。だけど児童クラブの職員は自らの家のことが心配と訴えるため帰宅させたい。学校の責任者である校長が最後まで子供の面倒を見るべきとの意見である。児童クラブの職員が子供を残して帰宅することは職務の放棄であろうと思っただけが、担当は帰宅させることを主張する。

そんなやり取りの中、判断がつかなかった私をあざ笑うかのように、多くの校長先生が率先して学童の児童クラブの職員を帰宅させ、残された子供たちを自ら預かってくれたのである。保護者が到着したのが、深夜になる学校も複数あった。子供の顔を見て安堵の表情を浮かべる母親の姿は印象的であった。すべての子供の引き渡し完了したのは、翌朝の9時頃であった。

また、主に産業道路沿いの学校では、帰宅困難者のために一時避難所として開けてもらいたいとの依頼が危機管理課からあった。該当の学校ではやはり校長先生が陣頭に立って水や毛布の配布を行った。誰一人苦情を言うことなく緊急事態の仕事を遂行したのである。校長としての決断力と責任を取る覚悟がひしひしと伝わってきた。その姿は後光が差していた。

Cさんのこと

小堀 壯一

「これあげる」そう言って、私の掌にねじ込むように紙片を押し込むと、素っ気なく自席に戻っていくCさん。

今日は、A小学校2年B組で初任者研修学校研修の最終日です。この日、拠点校指導教員を務める私は、いつものように教室の後ろに立っておりまして。すでに1時間目の授業は始まっています。Cさんは、そんなことはお構いなしに近づいてきたのです。

先ほどの紙片、どうやら手紙のようです。メモ帳を破って使ったのでしょうか。二つ折りにした端からピンク色の何かが覗いておりました。なんだろう。開いてみるとウサギの耳でした。その下にたどたどしい文字で「ありがとうございました」と。

「おいおい、それを今言うか・・・」何事もなかったかのように座っているCさんの背中を見つめながら、おかしいやら、可愛いやら、何とも複雑な気持ちです。この1年間、Cさんの話題には事欠きません。週に1日だけの私ですら手を焼くのですから、初任者の担任にとっては、たいへんな負担感だったことでしょう。

勉強大嫌い、授業中も座っていられず這いつくばったり、そうかと思うと猫のように徘徊したりするCさん。宿

題をしてきたためしはなく、忘れ物もしばしば。担任も私も、何としてでもこの子を躱けなければという一心で接してまいりましたが、その度に脹れて反抗するCさんでありました。そのCさんには、本人がどうすることもできない事情を抱えているのです。実に複雑な家庭環境で暮らしているのです。目をかけ手をかけ言葉をかけて「愛育」しなければならぬ子供です。

日本の公立小・中学校は、児童・生徒を選好みせず、平等に受け入れます。当然、生徒指導上の問題行動を頻発させる子供もいます。問題行動の背景を承知した上で粘り強く指導に当たるのがプロ教師ですが、所詮、生身の人間です。努力は惜しみませんが、できることには限りがあります。

先般、小学校の学級編制の標準が久しぶりに引き下げられました。小さな一歩ですが、僅かでもプロ教師の負担感が軽くなるのであれば大歓迎です。

顧みるに三十有余年奉職し、様々な子供たちに接してまいりました。あの時、あと少しだけ自分に余裕があったら、Dさんへ粘り強く指導できたか。Eさんと心を通わせられたか。後悔することばかりです。

間もなく新年度。拠点校指導教員の職を通し、子供たちと日々真摯に向き合う矜持をもった教師を育ててまいります。

教育情報

心と身体を守り、育む学校教育

川口市立朝日東小学校

校長 熊谷茂樹

一 はじめに

この度、本校の学校保健教育が「令和2年度学校保健及び学校安全文部科学大臣賞」を受賞いたしました。これは大変な誉れであり、支えていただいた保護者の皆様、地域の方々、学校医の先生方をはじめ、支えていただいている皆様のご協力、ご理解、ご尽力のお陰であります。

本稿では、これまでとこれからの歩みを記します。ごく一端ではございますが、諸先輩方のご指導、ご鞭撻賜れば幸いです。

二 全教育活動が学校保健に通じる

本校では学校保健を「児童一人一人の心と身体の健康を守り、育む教育」と捉え、すべての学校教育で取り組んでおります。こうした捉えは、いずれの学校にもあるものですが、本校はこれを強く意識して日々の取組を行っております。

三 要となる養護教諭

本校養護教諭は「学校保健はすべて

の教育で取り組むものである」という確固たる信念の下、保健室経営から教育相談まで積極的に取り組み、学校運営の一翼を担っています。

四 開かれた学校保健委員会

本校の学校保健委員会は「児童の心身の健康保持・増進に関する学校の健康課題を明確にし、学校・家庭・地域が連携して研究協議をし、その解消に努めるもの」と位置付けています。

参加者は児童生徒、保護者、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、民生委員・児童委員、学校運営協議会員、学校応援団等です。有識者の講演や児童の研究発表、グループワーク等を年間3回行い、うち1回は中学校区学校保健委員会として行います。

五 自主的・実践的な活動

特別活動の充実・発展にも力を注いでいます。学級活動では担任と養護教諭による授業を計画的に行っています。児童会活動は児童の発意・発想を大切に、「言われてやる活動」から「自らやる活動」へと昇華させて

います。保健委



員会では「朝東っ子(あさひっこ)歯みがき隊」として上級生が下級生の学級を訪問し、ブラッシングのアドバイスを言っています。「低学年のとき歯みがき指導をしてもらって、自分もやってみたくて保健委員になりました」という児童もいます。

六 心の健康が一番大切

「教育相談日」は担任だけでなく管理職からスクールカウンセラーまで相談相手を選ぶことができます。「心のアンケート」は人間関係トラブル発見、指導のために定期的に行っています。

「校長先生ポスト」は人目を気にして悩み相談の手紙を投函することを躊躇う児童のために、クイズを出して、解答用紙を投函する形にしています。解答用紙に「聞いてほしいこと」が書ける欄を設けました。いじめ解消につながるきっかけにもなりました。「生徒指導委員会」は課題となる事案を事前に会議用シートに入力し、それを校長と生徒指導主任で目を通し、必要に応じて情報を整理したり、対応の方向を書き足したりします。「パパママ子育て知恵袋」は週1回、保護者向けにHPで連載しています。児童だけでなく、保護者の気持ちにも寄り添っていくことを大切にしています。

七 その他の取組

UMF歯数が0・03本であることも特色の一つです。フッ化物洗口を継続していることの成果です。感染症拡大防止策は全教職員が知恵を出し合い、状況に応じて見直しができるようにしました。組織力を高める機会となりました。児童の体調不良・ケガの対応と給食のアレルギーマニキュアルを作り直しました。新たな生活様式が続く中、さらに学校保健教育を充実させるべく、日々、奮闘しております。

編集後記

会報23号をお届けいたします。また、玉稿を賜りました皆様には、心より御礼申し上げます。さて、新型コロナウイルス変異株の感染が広がる中、学校教育も感染防止対策をより一層徹底しながら教育活動を進めているところかと思えます。そのような中、GIGAスクール構想をはじめ、STEM教育やSDGsの考え方を取り入れた教育など、世界的な潮流に従って教育の在り方も大きく変わりつつあるように思います。今後、新しい教育内容・方法の中で「教育の本質は何か」を探し求めていく、そのような力が、さらに必要になってくるように思います。(村田文男)